

|         |                               |          |         |
|---------|-------------------------------|----------|---------|
| 氏名      | 稲葉亮一                          |          |         |
| 学位の種類   | 医学博士                          |          |         |
| 学位授与番号  | 乙 第391号                       |          |         |
| 学位授与の日付 | 昭和44年9月30日                    |          |         |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者<br>(学位規則第5条第2項該当)  |          |         |
| 学位論文題目  | 諸種の実験的条件下に於けるマウス小腸粘膜上皮細胞総数の変動 |          |         |
| 論文審査委員  | 教授 大内 弘                       | 教授 新見嘉兵衛 | 教授 小川勝士 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腸陰窩に於ける上皮細胞の増殖はきわめて活発で腸粘膜全域の上皮細胞は短時間内(2日以内)に更新されるといわれている。そこで本研究では諸種の実験的条件(饑餓, X線全身照射及び抗癌物質の腹腔内投与)の下で腸管粘膜上皮細胞の増殖が抑制されると, 該部の上皮細胞総数がどの様に変動するかを追求した。実験方法としてはマウスの小腸を多数の断片としてRanvierの $\frac{3}{8}$ エチルアルコールに浸して粘膜から上皮細胞を分離し小腸全域の上皮細胞総数を概算した。その結果, 小腸粘膜上皮細胞の総数が饑餓マウスでは正常値の約 $\frac{3}{8}$ に, X線全身照射(線量600 $\gamma$ )では正常値のおよそ $\frac{3}{8}$ に, そして抗癌物質(Mitomycin-C, Endoxan, Thio-TEPA)を腹腔内に投与した場合には正常値の $\frac{1}{10}$ から $\frac{1}{20}$ に減少する事が明かにされた。

(昭和44年6月発行の岡山医学会雑誌, 第81巻第5, 6号に掲載予定)

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、諸種の実験処置による腸管粘膜上皮細胞の増殖抑制の結果、その細胞総数が減少する経過を数的に追求し、その減少が極めて高度であることを明らかにしたものであって、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。